

賞大園甲子米のヒット  
インタビュー受賞

新砂川農業協同組合  
組合長 杉本 修 さん

## ゆめぴりかの里は 北の魚沼を目指す



### 念願だった受賞

自らも米の生産農家である新砂川農業協同組合組合長の杉本修さんに率直に受賞に対するコメントを求めると「取りたい賞の一つだった。」と語り頬をゆるめて嬉しさを滲ませた。

日経トレンドイは、商品のヒット予想や商品の評価を消費者に伝える情報誌。「米のヒット甲子園は、消費者に食べて貰いたいその年の新米に贈られる賞。そこで大賞を受賞するのは非常にうれしい。」と話すと続いて選ばれるお米になった要因について教えてくれた。

### 施設、技術、支援が 実を結ぶ

「特別栽培米ゆめぴりかは、全量がライススターミナルに集荷されて、しっかりと品質保持されます。また、新米の風味が失われないう雪を利用した利雪低温倉庫で保管するなどハード面がしっかり整備されて

いる他に、生産者と一体となって技術を共有したことや生産者とともに全国のことだわりのお米屋を回り直接声を聞いて回ったことも大きい。町からのケイ酸資材の助成など低たんぱく米を生産しやすい環境も要因。」と農協、生産者そして奈井江町が行ってきた取り組みが評価に繋がっていると分析した。

### 厳しい基準を設け 美味しさを追求

「当農協の基準外品は、ゆめぴりかとして流通させない。」ゆめぴりかとして出荷されるものは、たんぱく含有率7.4%以下という基準がある。基準品として売りに出せるものには、基準外のお米を少量混ぜることは可能だが「それは行わない。独自に6.8%以下という厳しい基準を設けてそこを目指している。」

厳しい基準は、時に生産者の収入に影響を与える可能性もあるが「目先の利益を考えずに生産者は、6.8%以下の良食味米を目指し努

力を続け、厳しい基準に添えてきてくれた結果が、今に繋がっています。」とことだわりの米作りとそれに応え続けてくれた生産者を讃えた。

### 消費者の笑顔の ために

ゆめぴりかは、粘り、柔らかさ、甘さの特徴が際立った個性の強い品種と言われている。「私たちのゆめぴりかは、本来のゆめぴりかの美味しさを維持しつつも食べ飽きないバランスの良い食感と旨味があると評価されてきました。それをしっかりと継承することが大事。誰が食べても美味しいを目指しています。その為には、まだ足りない部分もある。全国にある美味しいお米の産地を訪ね、勉強して生産者と取り組んで行きたい。」と今後、新砂川農業協同組合が目指す方向について述べる視線の見据える先にあるのは、美味しいお米を作り続けて喜ぶ消費者の笑顔に向けられるものだった。

大賞園子甲のヒット米  
受賞インタビュー

## 小さな産地の

## 大きな取り組み

特別栽培米生産組合

組合長 笹木 謙一郎 さん



### 地道な活動を続けてきた結果

過去2度、最終選考に残るも大賞を取り逃してきたJA新すながわ産の特別栽培米のゆめぴりか。3度目に手に入れた栄冠の裏には地道な努力がありました。

「この賞にエントリーされるためには、お米屋さん  
に支持を得なければいけません。冬に全国の米穀店を回り、生産の取り組みやお米の出来を伝える活動を続けてきました。この活動は、自分が始めたのではなく先代・先々代の組合長がずっと続けてきたものを引き継いでだけです。その地道な活動が自分の代で実を結んだだけ。」と謙遜しながら話してくれたのは、特別栽培米生産組合組合長の笹木謙一郎さん。

### 小さな産地だからこそ出来ること

当然、営業活動だけで取れる賞ではない。「米穀店は、産地を指定してお米を

入荷します。自分たちのお米を注文してくれた方々の期待に応えるお米を提供し続けて来たことが今の評価に繋がった。」と話し、「その原点は、ゆめぴりかを始めた当初からたんぱくの含有率を基準値より厳しく設定し、それを追い求めてきた姿勢にあります。たんぱくを低くするために化学肥料の使用を制限するため、収量は少なくなってしまう。生産者として収入を確保するためには、それを補う付加価値が必要で、それが美味しさであり、化学肥料や農薬の使用を制限して消費者に安全を届ける特別栽培米です。その、こだわりが他のゆめぴりかの産地との差別化に繋がりました。」と生産姿勢について熱く語ってくれた。

しかし、低たんぱく米へのこだわりは、最初から理解を得られた訳ではない。外部からは「何で収量を落としてまで低たんぱく米を生産するのか」と懐疑的な意見もあった。「この小さな地域で量を追い求めて

いっても、他の産地に太刀打ちはできない。ならば、逆にそれを利点として少量生産の良食味米の産地として生き残りをかけました。」幸いこの戦略は、美味しいお米が求められるようになった時代とマッチした。

### 栄誉の先に 見据えるもの

生産組合の取り組みについて「高い品質のお米を生産するために全員、土壌分析や肥育面談などの決まり事を遵守しています。他の産地から視察に来る方は使用する農薬まで指定されていることに驚きます。そこは個人としてはなく産地として勝負しているからこそ、しっかりと統一されていることが信頼に繋がっていると語ります。今後について話しを向けると「美味しい生産法を確立して、ゆめぴりかから品種が変わったとしても、この産地のお米が欲しいと言われるようになりたい。」米づくりへの情熱は、既に未来をも見据えていた。